

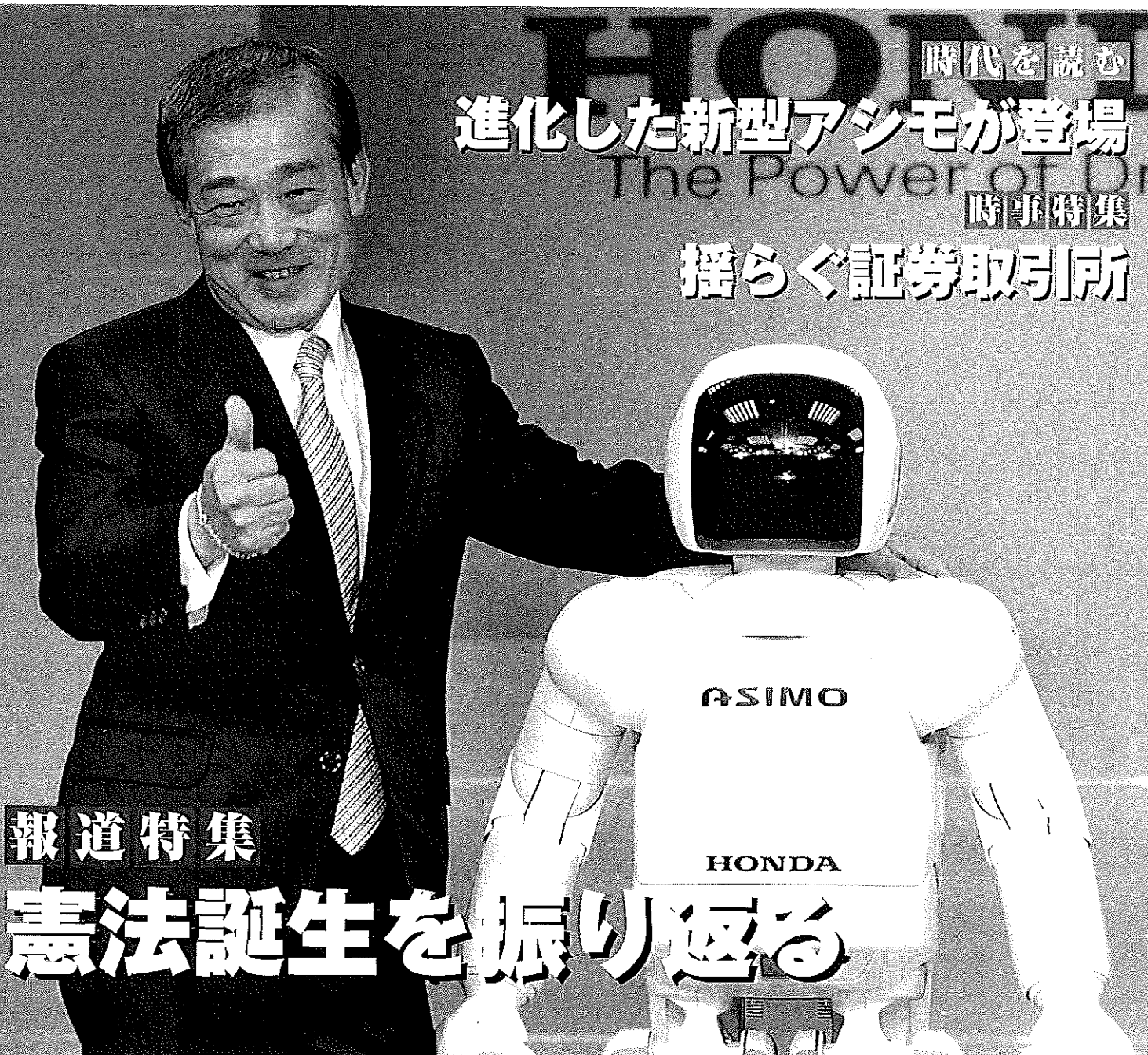
# 報道ニッポン

Monthly Graphic Journal : Houdou Nippon  
issue 203 / Feb. 2006 2

特別企画

## 再生日本

- 企業家たちの横顔に迫る ● ドクター訪問 ● Specialistに学べ
- ニッポンを支える技と心～VIP・ザ・職人 ● こだわりの食彩逸店



# 神奈川県



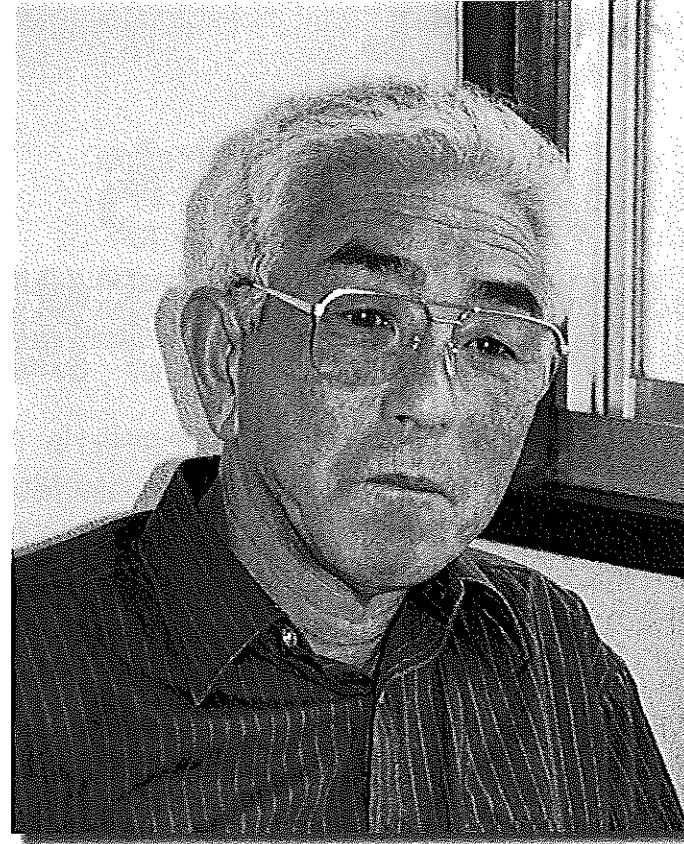
左官工事一式  
**株式会社 三上工業**

神奈川県小田原市寿町 1-14-16  
TEL 0465-34-4901 FAX 0465-34-0172

代表取締役 **三上 誠司**

### 【三上社長の足跡】

青森県出身。学業修了後すぐに左官の修業に入る。19歳のときに上京し、その後様々な場所で経験を積む。一度独立するも、オイルショックの影響から倒産を経験。その後、再起を図って「三上工業」を立ち上げた。



穂積 まず社長はこれまでの歩みからお聞かせ下さい。ご出身はどちらで？  
三上 いえ、青森県出身なんです。青森県で左官の修業を終え、19歳のときに上京。そして、20歳のときに静岡県へと移りました。昔の職人というのはそうやって道具1つを持って色んなところを転々としながら経験を積んでいたものなんです。その後ある会社では職長も経験しまして、そちらを退職後に独立。25歳のころには60人ほどの職人を抱える組織へと成長していました。  
穂積 その年齢でそれだけ規模の大きな会社を運営されるとは凄いですね。  
三上 しかし、当時の私は「人が増えれば仕事が増やせる」ぐらいにしか経営を考えていませんでした。そんな折にオイルショックが起こったのです。2年

ぐらいで仕事は半分減り、仕事に使うセメントもない。それで結局倒産してしまったのです。しかし、もう一度頑張りたいと思い、再起を図ってこちら小田原市で起業したんですよ。  
穂積 社長にとって左官工事の魅力はどういったところにあるのでしょうか。  
三上 皆で苦労しながら1つのものを作り上げていくところにやりがいを感じますね。完成したときの喜びは格別です。  
穂積 社長は今でも現場に？  
三上 ええ。現場が好きですからね。時間が空いているときは皆と一緒に働いていますよ。基本的にはコチー丁の生命ですが、どんどん新しい材料が生まれ、作り方も変わってきていますので、ただ事務的なことだけしていれば良いというわけにはいきません。

穂積 今の若者は仕事が長続きしないと言われますが、その点について社長はどのようにお考えでしょう。  
三上 毎年中高卒を採用しているわけですが、確かに若者の育成には難しさを感じます。せっかくこの業界に入ってきてくれたのに、3年もしないうちに辞めてしまう人が多いですからね。非常に残念ですよ。しかも他の会社で続けるなら良いのですが、業界自体を離れてしまう人が多いのはもっと残念ですね。  
穂積 若者に限らず今は一生同じ仕事をする人が少ないように思いますね。  
三上 ええ。私たちが修業していたころは技術を身につければどこへ行っても生活していけましたから、必死で覚えたものです。しかし今は人生に様々な選択肢がありますからね。  
穂積 何でもそうですが、興味を持てば楽しくなると思うのですが。  
三上 左官は決して楽な仕事ではありませんし、奥が深いですから、楽しさを感じる前に厳しいと思ってしまうでしょう。当社で今職長として頑張っている従業員は中高卒で、一級技能士などの資格もほとんど取得しています。この仕事を気に入ってくれているようで、大変嬉しく思っているんです。  
穂積 御社では主にどういった現場を手掛けておられるのですか？  
三上 マンションなどの大きな建物がメインですね。15名以上は必要な現場が



# 確かな技術と迅速な行動で仕事を行う左官のプロ

ビルやマンションにおける大型建造物の左官工事を手掛けている『三上工業』。抜群のチームワークと迅速な仕事が高い評価を受けている左官のプロ集団だ。同社の三上誠司社長は、「現場で仕事をしているときが一番楽しい」と語るほど左官業が好きだそうで、今後も生涯現役を目指して歩みを進めていきたいという。

多いです。現在当社は80名ほどの職人を抱えています。それでも足りないくらい忙しくさせてもらっていますよ。  
穂積 それでは御社の強みを。  
三上 団結力ですね。たとえ日曜日などでも「今日中にあそこの現場を片づけよう」と声をかけると嫌な顔1つせず、皆仕事に入ってくれるのですよ。それに行動が早いです。当たり前のことですが、工期内に納まらないなんてことは一度もありません。毎日朝のミーティングから仕事が始まりますが、5時半には全員集まっており、6時にはもう出て行っているんですよ。  
穂積 それでは今日まで続けてこられた要因と言いますと？  
三上 常に挑戦し続けてきたからでしょうね。例えば元請けの方から難しい注文があったとしても、その注文に応えられるよう必ずチャレンジするんです。それにはどうすればいいのかということを考

えて実行する。その繰り返しですね。苦あれば楽ありますよ。  
穂積 社長の真っ直ぐな性格が伝わってきます。  
三上 それだけに自分が思ったり感じたことは言わずにいられて。損をするようなことでも言うてしまうんです。た

「頑固で頭が固いところがある反面、人情や愛情に溢れている」というのが昔の職人さんの姿でしたが、現代社会ではそのような粋な方もほとんど見かけなくなりました。しかし、本日お邪魔いたしました「三上工業」の三上社長は、まさに古き良き日本の職人の姿を現代まで受け継いでいらっしやいました。社長の下で働いている若者たちには、是非これまでに学んでこられた技術だけではなく、職人としての熱い思いを伝えて頂き、後世にまで職人魂を残していただきたいと思います。社長の今後益々のご活躍に期待していますよ！



穂積 隆信

とえ取引中でもね(笑)。ですから、今まで損をしてきたことも多いです。  
穂積 取引中でも、とは驚きです(笑)。  
三上 金銭にあまりこだわらない性格ですから、金額の交渉などになると「もうお金はいらない」と言ってしまったことも。しかし、今は自分が経営者というのを自覚していますから、従業員達を食わせて、生活させなければという思いがあります。ですから我慢できるようになりましたよ(笑)。  
穂積 経営者として成長されてきたということですね。ずっと支えて下さっている奥様に対しては？  
三上 一年に一度は妻と旅行に出かけていましてね。そうして今まで苦労をかけた妻に少しずつ恩返しをしたいと思っています。この世界は女性に苦労をかけますからね。  
穂積 最後に今後の目標を。  
三上 自分の世代で終わるわけにはいきません。これからも着実に歩みを進めていきたいですね。そして、できる限り現場に出続けたいと思います。

(2005年11月取材)

### 職人 専断

▼左官業一筋に何十年も歩んできたベテラン職人の三上社長。この仕事の喜びは皆で苦労しながら1つのものを完成させることだそうで、たとえスムーズにいかなくてもそれを乗り越えてやり遂げたときに喜びを感じるのだという。  
▼だが、社長はこの道一筋に歩んできただけに、今の若者に対して残念に思うこともあるのだという。それはせっかく興味を持ち左官業を始めたとしても、面白さややりがいを見つけれぬ前にこの道

### 「厳しくて温かい職人の魂」

を断念してしまう若者が多いことだ。  
▼確かに社長の時代のように1つの仕事を定年まで一筋に続けていくことは少なくなった。だが、職人とは昔気質の人が多く、ときには頑固とも言われることもある。彼らには現代の日本社会が忘れかけている他人に愛情を持って接する心がある。その厳しくて温かい心こそが日本の職人が持っていたものなのだ。もし将来に悩んでいる人がいれば左官業という道を考えてみては

いかがだろうか。きっと温かく迎え入れてもらえるに違いない。

